

3. 付属品

- ① ヘリカルラバーアンテナ
- ② 外部電源接続用コード（プラグ付赤黒コード）
- ③ 単3マンガン乾電池（SUM-3 4本）
- ④ 取扱説明書
- ⑤ 保証書

4. 各部の名称と使い方

① 受信同調ダイヤル

受信周波数を合わせるツマミです。一目盛が20KHzで、50.500~50.700 MHzが受信出来ます。
(送信周波数は変わりません。)

② 電源スイッチ及び音量調節。（SW/VOL）

左下側のOFFにツマミが合っていると、電源が切れています。右へ回すと電源が入り、さらに右へ回すと受信音が大きくなります。
(あまり大きな音で聞くと電池が早くなくなりますから、適度な音量で使うとFBです。)

③ 送信確認ランプ（SEND）

スタンバイスイッチ⑤を押して送信状態になると赤色に点燈します。

④ レベルメータ

受信時ではSメータとして動作します。（下側のS目盛で読みます。）

送信時では送信確認メータとして動作します。この場合は、電池の消耗が分かるように送信時の電源電圧を表示していますので、赤色の線より左側になつたら新しい電池に交換して下さい。（図-4参照）

⑤ スタンバイスイッチ

送受信の切り換えスイッチです。押すと送信で、離すと受信になります。

⑥ アンテナ端子

インピーダンス 50Ωの50MHz用アンテナを接続します。付属のヘリカルラバーアンテナを使う時は凹凸を合わせて差し込み、右へ回すとロックされます。抜く時は、この反対です。

⑦ キャリブレートスイッチ（CAL）

本機の送信周波数はAMのQRP局が集まっている50.6MHz付近（正確には50.620MHz）の固定式です。しかし受信周波数は、相手局の応答周波数が自局と少し違っていても交信出来るように200KHzの可変が出来ます。

よって自分の出す電波の位置（周波数）に予め受信ダイヤルを正確に合わせておきたい時にこのスイッチを使います。

◎受信状態でCALスイッチをONにする。

◎ゆっくりと受信同調ダイヤル①を回してSメータの針がいっぱいに振れる所でダイヤルをとめます。

◎CALスイッチをOFFにします。この場所が自分の送信周波数に合った受信位置となります。

図-2

